

# SDGs

LEAVE NO ONE BEHIND

# 美しく豊かな地球を未来に

## 女性ならではの役割

— 今、日本で、特に課題だと感じられるSDGsの目標はありますか。

明確に、もっと顕著される分野はジェンダー平等ですね。昨年、世界経済フォーラムが発表した「男女平等がどれだけ実現できているかを数値化した「ジェンダー・ギャップ指数」によると、日本は186カ国中120位

職場を例にとれば、管理職などの責任を担うたら大変ではないか、と思われ、女性も少ないのではないかと、しかし、仕事も、家庭も、趣味も、バランスよく実現できることができれば、女性を採用・登用する企業や団体

女性の福利は重要なので、当然、獲得助定を返さずに守られるべきものです。しかし、女性を登用する効用をリスト化・数値化することができれば、女性を採用・登用する企業や団体

の経営者側にとっても大きな納得につながるでしょう。

一方、企業や団体も、ひとたび女性の活躍進に取り組みと宣言したならば、それを実践してほしいです。日本では、ジェンダー平等について話し合う場に、まだ男性が圧倒的に多い。女性がいなくても、シアターのほうはかりで、もがき苦しんでいる若手がいない。「例より始めよ」で、決めたからには、自らの行動で示してほしいと思います。

— 先ほどの下着配布の例もそうですが、難民支援やSDGsの普及活動を通して、女性で良かったと思う点はどんなところですか。

女性には、井戸端会議力がありますよね。「ねえ、聞いて聞いて」「なにかな」「それいいね、私もやってみようかな」……と。

## 若者こそが「今を担うリーダー」

## 他者への想像力働かせ自分事に

— 昨年10月末から約3週間、イギリスのグラスゴウで気候変動対策の会議であるCOP26(国連気候変動枠組条約第26回締約国会議)が開催されました。その際、温暖化対策の強化を訴える青年たちの大規模デモ行進が話題となりました。こうした若者の声、どのように受け止めていますか。

グテレス氏(国連事務総長)は、「若者は明日のリーダーではなく、今日のリーダーだ」とも言っています。COP26で議論された気候変動の問題は、未来を生きる若者たちに、直接の影響

を与えることです。その交渉の場に、当事者として若者自身が参加し、声を上げた意義は非常に大きい。日本の若者もグラスゴウに飛びました。彼ら彼女らが、世界の運動の最前線に触れることができたのは、貴重な経験だと思います。日本にも、さまざまな運動があります。しかし、世界で解決すべき課題については、国内にとまどめるのではなく、積極的に世界のネットワークとつながり、刺激を受けてほしいです。そこで得た経験や知識を自国に持ち帰ることもできます。反対に、日本特

有の課題を他国と共有することもできます。それが、すごく大きな財産になります。

— SGIの代表も、COP26に参加しました。創設学生青年部は今回、SDGsの取り組みに力を入れています。今後の活動への期待はありますか。

私は「I think abtivity, act locally」(I think abtivity, act locally)というのを申し上げます。世界規模で考えながら、自分の足元で行動を起こすこと。それも、ただ豊然とアクションを起こすのではなく、世界につながる具体的な貢献が重要だと考えています。

— SDGsの理念が徐々に生活に浸透している一方、何から始めればいいのか分からず、悩む人もいます。アドバイスをお願いします。

入り口は人それぞれ

— SDGsの理念が徐々に生活に浸透している一方、何から始めればいいのか分からず、悩む人もいます。アドバイスをお願いします。



UNHCRに勤務時代、ナイロビで貧困の少女たちに下着セットを配布する坂本さん(上)と大橋さん(下)。ケニアのマリアンゴ山の子どもたち(中央)。近年は子ども貧困とSDGsの普及活動(下)。(写真提供)



の方が、根をしていることよりはるかに多いんです。

国連の活動を展開している地域は、主に途上国や紛争をしている国々になります。その場合、保守的な価値観がまだ根深く、女性たちの本音を聞き出すのは容易ではありません。そんな時、女性の国連職員がいれば、輪

中に入っていくやすい。さらに紛争地域では、残念ながら女性への性暴力が頻繁に起こります。こうした繊細な問題は、公の場では話せないことが多い。何げない会話を糸口にして、要領を把握し、大きな支援活動につなげていく女性の情報収集力は、さまざまな局面でプラスに働きます。

在していた社会のひずみ、例えば、シングルマザーの問題や、子どもがよりいっそう深刻になり、目に見えるようになってきました。

初めは医療の自費でしたが、やがて、教育、人権、雇用、貧困など、あらゆる局面の危機につながっています。一つの課題だけを「たこぼし」のように考えず、真の解決策にはならない。総合的なアプローチが必要だと理解すること、国内外の人たちと肌感覚で理解してはいませんか。

SDGsの素晴らしいところは、仮に入らなくても、全ての課題がつながっているということです。食料ロスから始まった関心が貧困や飢餓の問題に結び付き、さらには、気候変動、海や陸の豊かさといった課題にも及んでいきます。

今、SDGsの理念を基に、社会の仕組みを抜本的に変えてほしいの大胆なアクションが求められています。その中、とても大切なものが、「たくましい想像力」だと思っています。相手の立場になって痛みや苦しみを感じ、自分事と捉えることです。最近はややキョメンタリー映画などで、社会の問題をやわらかいタッチで伝えるものが増えています。一人一人が「想像する力」を育み、できることから一歩を踏み出し、いければと願っています。



昨年11月の「COP26」に際し、イギリスのGPI青年部とイベントを共催。気候変動をテーマにした「ワークショップ」中。



インドネシアで、工事中の道路を越えて海水が住宅地へ(昨年10月)。地球温暖化による海面上昇が被害が懸念される。時事

